

平戸高初 大学との連携授業

グループワークの基礎学ぶ

長崎総科大・藤原准教授

「尊重し合うことが大切」

平戸市草積町の県立平戸高(峰薫校長、70人)の1年生21人が、長崎総合科学大マネジメント工学コースの藤原章准教授による出前授業で、チームビルディング(グループワーク)の取り組みの基礎を学んだ。

1年生が取り組む「産業社会と人間」の一環で、同校では初の高校大学連携授業。藤原准教授は「平戸発のアイドルのプロデュース」という課題を提示した。

生徒は四つの班に分かれて、アイドルの特徴やアピールポイント、マネ

ジメントする会社の名前などを考えた。また、アイドルを売り込む手法や、アピールする主な年齢層などについても検討。「ダンスが得意なグループ。インスタグラムなど交流サイト(SNS)を活用」「高齢化が進む平戸で、高齢者をターゲットに」など、各班の構想を模造紙にまとめて発表した。

リーダーの1人、竹田連さん(16)は「自分が知りたいことをたくさん学べた。藤原先生にはまた、来てほしいが、自分が大学に行き、講義を受けたい」と意欲を語った。

藤原准教授は「今回、取り組んだ対話型授業で経営、マーケティングなど大学生が学ぶ分野でも学びを深められた。それぞれの考え方、アイデアを尊重し合うことが大切」と生徒に呼びかけた。

(辻秀敏)



藤原准教授(左から2人目)の授業を基にまとめた「平戸発のアイドル」のプロデュース方針を発表する高校生
＝平戸高